

# 緑の丘福祉会

## 創立30周年によせて

佐々木

享

社会福祉法人緑の丘福祉会理事長

### お礼のうた

わたくしたち——社会福祉法人緑の丘福祉会及び、この法人が設置運営する「どろり保育園」と「ひまわり保育園」は、1976年10月に設立されましたので、2006年10月には創立30周年を迎えました。

この機会にわたくしたちは、法人の創立と両保育園の設立と発展に、筆舌に尽くし

がたい多大のお力添えを下さった多くの人びと、名古屋大学当局、福祉行政機関など関係各方面の方々的心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

経営に労苦の多かった職場共同保育所の時代から認可保育園となった今日まで、30年以上引き続いてわたくしたちの職場で働いている職員は、本年現在、両園合わせて7名を数えます。そのほか、法人理事の長谷川康子、水谷暎子両元園長、ながらく法人事務局長を務めてきた難波忠清氏も職場

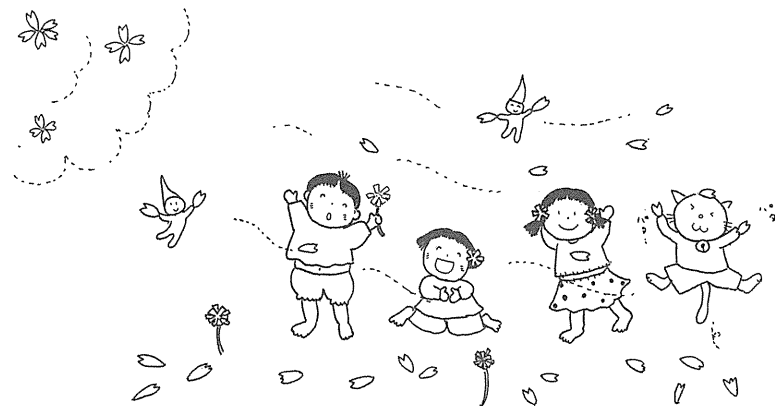
共同保育所時代を体験してきた方々です。

ということは間もなく、たとえば10年後に法人と両保育園が創立40周年を迎えるときは、職場共同保育所時代を体験した職員はおそらく一人もいなくなる可能性が高いわけです。

こうした経過を考慮して、この機会に、創立前後の事情と創立後の発展の経過に触れながら、わたくしたち法人の特徴の一端などを述べて、御礼のご挨拶に代えます。

## どんぐり・ひまわり保育園生誕の 背景から——初心を忘れずに

ご存知のように、1968年にどんぐり保育園は名古屋大学東山キャンパスの一隅に、ひまわり保育園は同じ名古屋大学の鶴舞キャンパス(通称病院地区)の一隅に、



それぞれ職場共同保育所として誕生しました。

二つの職場共同保育所が誕生する少し前までは、附属病院の看護婦(現在の看護師)さんの間には結婚して子どもが出来たら退職する旨の内規(申し合わせ)があったと伝えられています。これは決して珍しい話ではなく、名古屋大学に限らず日本のたぐさんの職場では、ながらく、女性は結婚したらあるいは子どもが出来たら退職するものだという風習が根強く存在していたことを示唆しています。

病院地区に保育所をとという要求は、女性たちのあいだに結婚しても子どもが生まれても働き続けたいという1960年代になつてから芽生えた要求を基礎として、まずこのような内規を廃止する運動から始められたのでした。働き続けるために保育所をとという要求と運動が時を同じくして東山キャンパスにも生まれたのは、偶然ではありませんでした。

保育所開設要求運動は、まず東山共同保育所、鶴舞地区のひまわり共同保育所として実現しました。その後、両保育所の運営

組織をはじめとした学内諸団体を網羅した運動は、名古屋大学当局のご理解とご協力に支えられ、行政当局の理解が得られ若干の時日を経て1976年に認可保育園として結実したわけです。

わたくしたちの法人と両保育所は、別掲の資料「どんぐり・ひまわり両保育園の認可にあたって(72ページ参照)」に示されているように、働く女性のねばり強い要求とそれを支持してくださった広範な人びとの協力と援助により発足したことを忘れることなく、今後の活動の中に生かしたいと決意しています。

## 子育ては 親と保育者が手を結んで

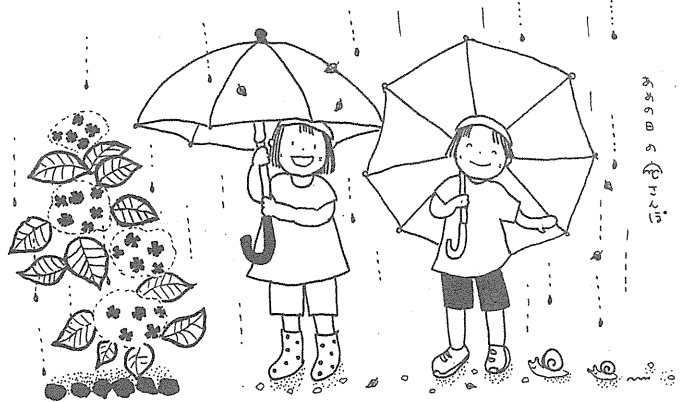
現代の子育てに親と保育者が手を結ぶことは不可欠です。共同保育所の時代の経営には、親と保育者はたんに子育てをめぐる共同だけでなく、慢性的に赤字だった経営資金の捻出のために募金活動、バザーの開催など経営そのものに協力、共同が不可欠でした。こうした活動は、子育てをめぐる親と保育者との結びつきを強めました。

社会福祉法人の認可保育園になってからは、公的な援助が得られるなど経営基盤が安定しました。しかしわたたくしたちは、認可園となって以後も、子育てをめぐる親と保育者との協力、共同を大事にしてきました。

そのために保育園の職員、親（保護者）の会が重要な役割を果たしてきたことはいうまでもありませんが、わたたくしたち法人の場合には、法人理事会の下におかれた事務局がその活動の要かなめになってきました。

この事務局は、時期により多少異なりませんが、保育園職員4名（両園長、両園の主幹）、現保護者2名、子どもがすでに卒園した元保護者（その中には後に理事に就任した者も含まれます）4〜5名の計10名前後で構成されています。事務局会議は原則として毎月1回は開催され、園の運営、経営にかかわる日常的な業務について協議するとともに、実務を分担処理するなど、親と保育者との民主的な共同活動の要の役割をこなしてきました。

この30年の間には、子どもがすでに卒園したのちも長年にわたって事務局員を務め



てくださった方も少なくありません。これは、わたたくしたちが誇る伝統の一つになっています。しかし、それが果たしてきた役割の重要性にもかかわらず、法人に必置ひつちの法定組織ではないこともあり、その組織と活動は『20周年記念誌』などには記載されませんでした。長年にわたるご協力に感謝するとともに、この際、その存在と果たしてきた役割を特筆する必要を感じた次第です。

### 大学関係保育所運動に 学び励まされながら

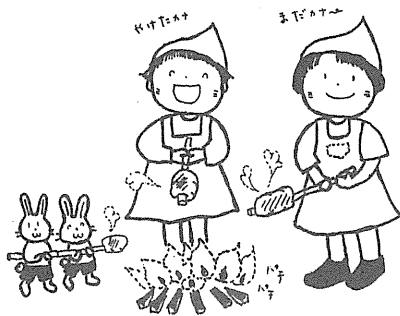
わたたくしたちの両保育園は、名古屋大学のキャンパスの一郭であるかのような位置に設置されています。それも道理で、両保育園を設置運営するわたたくしたちの法人がそれぞれ名古屋大学の土地を借用しているのです。これは、両保育園が名古屋大学



キャンパス内に開設された職場共同保育所であったことに由来します。

大学構内に開設された職場共同保育所から認可保育園への道は平坦ではありませんでした。1970年代に入ると、公立保育所以外に共同保育所が全国の地域や職場に開設されました。そのなかで、わたくしたちと同様な状況におかれている全国の多数の大学にも、職場共同保育所が生まれました。

大学のキャンパス内に開設された保育所数は年々増加し、最近(2003年頃)はわたくしが、九州大学の保育園の法人理事をしておられた森山日出夫先生と協力した



調査では、国立大学19、公立大学8、私立大学21に及んでいます。この他に一旦開設されたのに、その後種々の事情で廃止された施設もありますが、近年は男女共同参画の運動の影響で大学関係の保育所は増加しつつあります。

名大の職場保育所の運動は、これらの大学関係の保育所運動に多くを学びました。とくに認可保育園への移行については、わたくしたちに先んじて1974年に認可保育園に移行した金沢大学の職場保育所運動の経験に多くを学びました。

わたくしたちは、認可保育園となった現在も、国立大学関係の保育所(の運動)とは密接な関係をもっています。とくにわたくしたちと同じく社会福祉法人による認可保育園に移行した東北、群馬、京都、金沢、九州の各大学の保育園の人たちとは、現在も当面する諸問題の経験を交流しています。

### 今後の発展に向けて—— 子どもたちの未来に平和を

法人の経営となつてからのわたくしたちの保育園は、別に詳しく述べているように、

当初は0～2歳児のための定員30名の小規模保育園として出発しました。その後、地域社会の要望に応じて園舎を増築し、就学前まで保育する定員60名の保育園となり、さらにどんぐり保育園は園舎を増築して定員90名となりました。

延長保育、障害をもつ子どもの受け入れ、地域の親たちとの結びつきの強化など、わたくしたちは、今後も地域や職場の様々な要求に応えて、親(保護者)や地域社会の人びとと手を結んで子育ての仕事を発展させる所存です。

ところで、わたくしたち保育事業にたずさわる者は、子どもたちの健やかな成長を願うとともに、これらの未来に平和な社会をつくっておくことも大切なつとめと思っています。この点でわたくしたちは、最近、日本国憲法改正の動きが顕著になるなど、日本の未来の平和に一抹の不安が見えることを気にかけています。

わたくしたちは、子どもたちの豊かな未来のためにいっそう努力する所存ですが、各位におかれてもこれまでと変わらぬご支援をお願い申し上げます。